

日本心霊科学協会11月公開講演会(28/11/2021)

死んだらどうなるのか：人文死生学の課題と方法

- **要旨**＞死後を真っ向から考える学として人文死生学が提唱されている。対象は自己の死であり、対象領域の確定のために自己と他者が認識論的に峻別され、他者は「私が他の誰かとして生きるような可能世界」と定義される。
- 方法は現象学的な体験の比較を第一歩とする。直接経験を超えるという意味で、「自己の死」と「他者」とは体験様式が似ている。
- 両者の比較から出発し、他者とは時間を異にした私であり、「私が誰かとして生きる可能世界が時間軸上で次々に現実化しては可能世界に戻ってゆく」という死生観モデルが構築されつつあるが、前途は厳しいものがある。

1

講師： 渡辺 恒夫

- 京都大学文学部で哲学を、同大学院で心理学を専攻。博士(学術)。高知大学助教授、明治大学兼任講師などを歴任。東邦大学名誉教授。2003年**人文死生学研究会**を設立。著書『明日からネットで始める現象学』(新曜社2021)、『**人文死生学宣言**』(共編著、春秋社、2017)、『夢の現象学・入門』(講談社選書メチエ、2016)、『フッサール心理学宣言』(講談社、2013)、『〈私の死〉の謎』(ナカニシヤ出版、2002)、『**輪廻転生を考える**』(講談社現代新書、1996)、『トランスジェンダーの文化』(勁草書房、1989)等。

人文死生学宣言

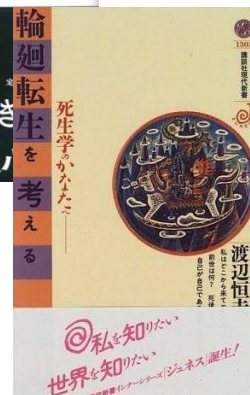
私の死の謎



The Enigma of My Own Death: Thanatology as Humanities
渡辺恒夫
三浦俊彦
新山喜嗣

死にゆく他者を見守り支援するばかりだったこれまでの死生学を超え、人間最大の難問たる「一人称の死」を、哲学や人類学など人文の知によって探究。高齢化社会で誰もが長い時間を生きあわねばならない自らの死を徹底的に思索する。

あらゆる臆見をはき
透明な死の核



死生学をかみくだく
輪廻転生を考える
渡辺恒夫
私を知りたい
世界も知りた
輪廻転生(トランスジェンダー)シネマズ誕生!

2

本日の予定

- § 0 人文死生学の**目的・対象・方法**
- § 1 人文死生学の対象：**固有の対象領域の確保**
自己の死と他者の死の認識論的峻別
- § 2 人文死生学の方法：**自己の死という経験を超えた領域を語るための方法論的工夫**
- **メッセージ**：私の死から出発する死生観展開をよりよき物語にするためには、「**存在論的に対等な他者**」とは何かについての省察がキーとなる。

3

§ 0 人文死生学の**目的・対象・方法**： 一個の学を提唱するに必要な三本柱

- 1. 目的：自己の死の謎の解明
- 2. 対象：**固有の対象領域の確保。**
- **自己の死と他者の死の認識論的峻別**
- (前提) 自己と他者の認識論的峻別
- 3. 方法：自己の死という**経験を超えた領域を語るための方法論的工夫**

4

§ 1 人文死生学の対象：固有の対象領域の確保 自己の死と他者の死の認識論的峻別

- 目的：自己の死の謎の解明；対象：自己の死
- 「死の謎一般」ではない、「自己の死の謎」を問題にするためには、自己の死と他者の死が峻別されなければならない。
- ↑自己と他者が峻別されていなければならない
- 実はきわめて難しい。
- 私たちは日常、「多数の他人たちの間の一人の他人」としての人生を生活しているから。

5

実習課題(エクササイズ)

- 描画課題1
- 配布された白紙を使って、自画像を描いてください。
- 他者の姿が近くにある場合は、自己の像と同じ画面中に、1人に限りその他者を描いて下さい。
- 鏡や写真を使わない。目に見えるがままに忠実に写生(スケッチ:略画)すること。
- 時間、7~8分以内。

6

描画課題1

- ・ 自画像と他者像を一つの画面に描きなさい
- ・ 鏡や写真使用不可

- ・ 左が自分で右が友人
- ・ 両者、授業中絵を描いている様子

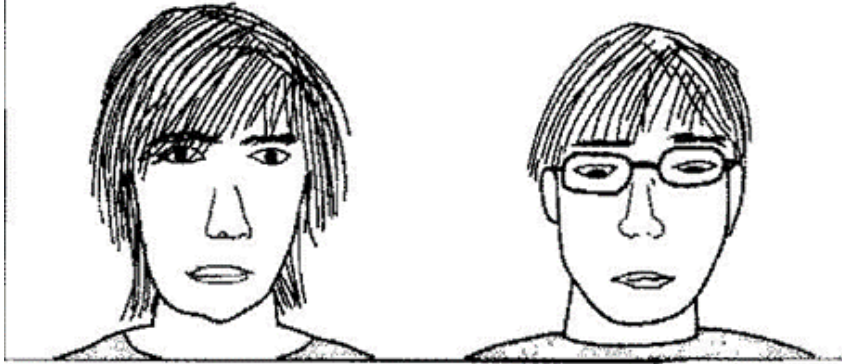


図0-3: 学生による自画像と他者像: **手本**を見る前。自分と友人とが共に正面を向いてならんでいるという、よくある構図で描かれる。

7

マツハの自画像
 (「感覚の分析」)

手本を見せる

描いた後、



8

エルンスト・マッハ(1838-1916)



Dr Ernst Mach

- オーストリアの物理学者・心理学者・哲学者
- マッハ数: 音速の何倍かを示す。
- 物理的世界によって主観的世界を説明するのではなく、主観的経験世界から出発して物理的世界を理解することを主張。

9

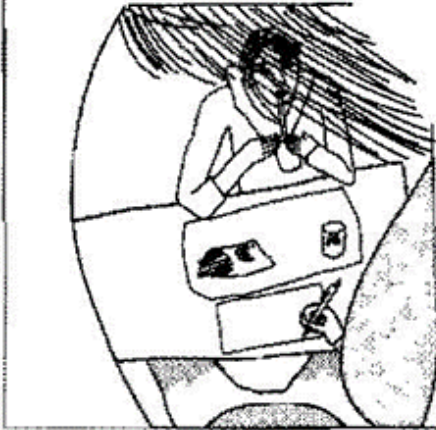
明治大学講義での実習課題

- 描画課題2(家での宿題)
- 手本の「マッハの自画像」を参考にし、自画像と他者像を、目に見えるがまかに忠実に描きなさい。
- 課題1の絵(マッハの自画像を見る前)と、2の絵(見た後)の両方に、簡単な説明文をつける(自己は何をしているところか、他者は誰で何をしているところか、等)

10

描画課題2

・「マッハの自画像」を参考にして、自画像と他者像を目に見えるがままに忠実に描きなさい



- ・手前の下半身，右下の鼻，上の前髪は自分であり，奥で食事をしているのは友人である
- ・ファストフード店で食事をしている友人とそれを見て絵を描く自分を描いた

学生によるマッハ的な自画像と他者像(事例1)

11

明治大学講義での実習課題(続)

- 二つの絵を比較し、課題1の絵から(手本を見た後の)課題2の絵へ、どのような変化があったかを考察しなさい。
- 課題2の絵について。
- 描きながら、または描いた絵について、もしくは手本となるマッハの自画像を見たときに感じたこと思ったことがあれば、「考察」の欄に付け加えなさい。
- レポートとして提出。

12

マツハ的自画像実習レポート:事例1

- 昔から自画像を書くとなると、なにも考えずに自分のイメージである写真や鏡で見た**他人から見える**間接的な**自分**の姿を描いていた。
- しかし、今回は自分から見えるがままの自分を初めて描いた。
- ここで私は、普段**自分を**、絵を書いた中の**他人と同じ人間の一人として捉えている**ことに気づいた。
- そして**自分は本当に他人と同じ存在であるのか(うまく表現できないが)**という不思議な感覚も感じた。

13

他の例

- 事例2 「よく学校で『自分を客観視できるようになれ』という言葉が聞かされたのだが、むしろ我々はいつも**自分を客観的にしか見てなくて、逆に主観的に見る**ことの方が難しいのではないかと、考えた。」
- 事例3 「スケッチをしていて感じたことは、いかに日頃の生活では自分を主観的に捉えていないか、ということである。また、**自分を主観的に捉え、自己像をスケッチする作業は、自分自身のありのままの姿を受け入れなければならないため、自己との格闘**であった。」

14

- 私たちは日頃は、自分を「**他人たちの間の一人の他人**」としてしか捉えていない。
- これが、学校などで聞かされる「自分を客観視できるようになれ」という教えの正体。
- 自分と世界を「主観的に見る」、つまり「自分自身のありのままの姿」を見るには、事例3がいみじくも書いているように、「自己との格闘」が必要になってしまう。
- 自分と世界を主観的に見るための組織的な方法論を発展させつつあるのが、現象学。
- ⇒『明日からネットで始める現象学』（新曜社 2021）世界一分かりやすい現象学入門書。

15

【実習レポート：事例1】

- ・ここで私は、普段自分を、絵を書いた中の他人と同じ人間の一人として捉えていることに気づいた。
- ・そして**自分は本当に他人と同じ存在であるのか**（うまく表現できないが）という**不思議な感覚**も感じた。

- 参)このような体験を自我体験・独我論的体験と称する。
＝自己の自明性の破れ（『自我体験と独我論的体験』北大路書房、2009）
- 児童期に生じることが多いこの体験が、実験的に誘発された貴重な事例が事例1である。
- **「事例1」は、自己と他者が峻別され、**
- 自己の存在が「謎」として新たに意識される現場。
- ⇒ **自己の死と他者の死の認識論的峻別**（人文死生学の対象領域の確保）の準備ができた

16

§2 人文死生学の方法：自己の死という経験を超えた領域を語るための方法論的工夫 あらすじ

- ①科学的と見なされている**終焉テーゼ**も、②伝統的宗教の**魂の不死説**も、一人称の死と三人称の死の異種混交から出発する故、物語としては不満足。
- 一人称的マツハ的体験世界から出発し直し、③私が死ねば世界が消えるという**世界消滅テーゼ**と、④私の死後・生前にも生きる「**他者とは何か**」に手掛かりがある、という説をとりあげる
- 方法：学生の報告する自我体験調査事例と、小説、アニメ等の事例の比較考察(=現象学の方法)。取り上げる作品：
- アニメ『**神様になった日**』(2020)、SF『七瀬ふたたび』、ジュリアン・グリーン(1900-1998フランスのカトリック作家)の『**ヴァルーナ**』(1940)

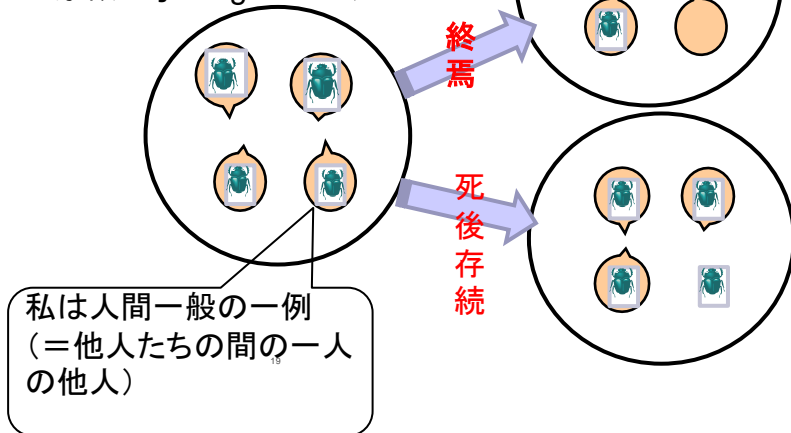
17

- エピクロス曰く「生きていれば死を経験できず、死ねば経験ということもありえない。故に死は経験できず、語り得ない」
- **人文死生学の方法**：経験できず語り得ない死を語るための工夫
- 語り得ぬはずなのに物語ってしまうのが死生観、というところに着目。では死生観は何について語っているのか？
- 例：終焉テーゼと死後存続説(魂の不死説)
- どちらも、自己の死でもなく他者の死でもなく、**人間一般にとっての死**を語ってしまっている。
- **終焉テーゼ**：科学的とみなされ分析哲学系死の哲学の主流
- **死後存続(魂の不死)説**：伝統的宗教の主流
- ⇒どのような自己・他者についての暗黙の前提に基づいて物語っているかの図解⇒次スライド図

18

終焉テーゼと死後存続説

- 上空飛行的視点から想定された世界。肉体という容器の中に意識が入っている(カブト虫は意識の私秘性の象徴 byWittgenstein)



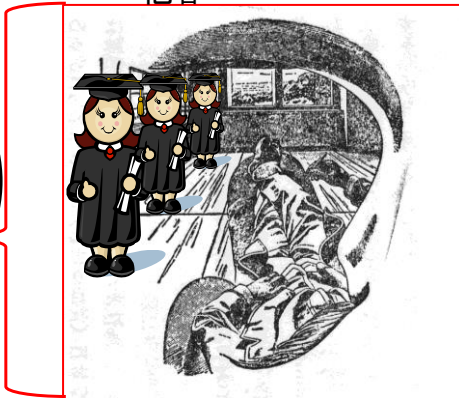
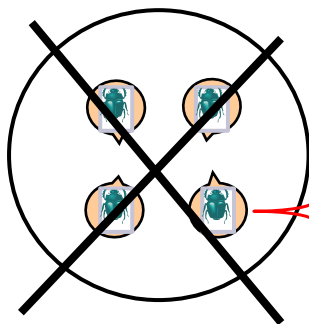
19

人間一般の一例(他人たちの間の一人の他人)としての自己から出発することをやめる。

私が直接経験する世界の(再)発見⇒右図

- 上空飛行的視点から想定された世界「私は人間一般の一例である」

マツハ的世界の自己と他者

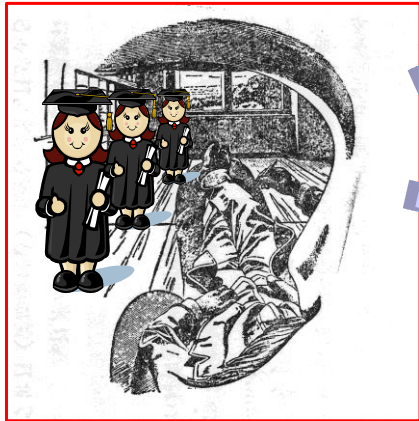


20

私が直接経験する世界(マツハ的世界)を出発点とする私の死の物語の再構築

選択肢A: 私が死んだら世界が消える

選択肢B: 私のいない世界に生きる他者とは誰かを問う



選択肢A

選択肢B



21

選択肢A) 私が死ねば世界が消える＝世界消滅モデル
 選択肢B) 私が死んでも世界が消えないとして、私のいない世界に生きる他者とは誰かを問う

- アニメ、小説に体験事例を求める。
- 調査事例(『自我体験と独我論的体験』(北大路書房、2009)と比較する*。
- *学問的認識の第一歩は複数事例の比較。
- 現象学的方法としての本質観取: 複数事例の比較→共通項と差異項の抽出→普遍化と差異化を通じての分類→最初の直観の精緻化、と進む*

22

選択肢 A) 世界消滅モデルのアニメ『神様になった日』 (麻枝准原作脚本、2020)

- 高校生の成神陽太の前に修道衣を着た少女があらわれ、「30日後に世界は終わる」と予言する。
- 少女・ひなは全知の神を自称し、未来予知や人の願いを叶えてみせる。
- 陽太はひなにふりまわされながらも、友人たちと楽しい夏休みを過ごす。
- 実はひなは先天性の病気で歩くことも話すこともできなかったが、祖父の博士の元で劇的な回復をしたことが判明してくる。
- 天才ハッカー少年が故・博士の研究内容を調査。博士が発明したチップ型量子コンピューターがひなの頭の中に埋め込まれていることを突き止める。
- ハッキングされた瞬間、ひなは、終わろうとしているのは「自分の世界」の方であり、死が近づいていることに気が付く。
- <認識の限界＝世界の限界>



23

複数事例の比較↓

筒井康隆『七瀬ふたたび』 (新潮文庫、1978)

- に出てくる予知能力者の青年は、未来に自分で見る光景を思い浮かべることで予知をする。
- ある時から予知の映像には「まがまがしい赤い空」だけが出てくるようになって、てっきり能力がなくなったと思っていたら、最後に死の間際に見る光景だったと、種明かしされる。
- 最初から<認識の限界＝能力の限界>と理解されていたのだ。
- 『神様になった日』との違い。
- 予知能力者は成人で、堅固な常識的自明性の世界に生きていた。
- ひなは8歳の子どもで、常識的自明性の門が完全に閉じる前の段階だったから、<認識の限界＝世界の限界>という独我論的世界がたやすく成立した、と解釈できる。

24

〈認識の限界＝世界の限界〉の調査事例

- 【事例3-19】小学校低学年；「自分の視界に存在しないものは実際はなくて、自分が移動するたびに新しいものができると思ったことがある。例えば、今自分がこうして教室にいますと、教室と外の景色（自分の視界）以外は存在しなくなるというふうに考えたことがある。」（19歳/男子）
- （『自我体験と独我論的体験』北大路書房、2009）
- 【事例4-7】7歳—小学校の帰り道。ふと自分が死んだら自分の見ているこの世界はどうなるのかと思い、世界が消えるのかと思ったがそんなことはないと考えなおし、自分が見ているとはどういうことなのか、自分が死んだらどうなるのかを考え続けたがわからず、他の人に相談しようとしても上手く言葉で説明できなかった。（同書）

25

選択肢B > 自分が消えても世界は続き、自分以外の人々（＝他者）は生き続ける、その他者とは誰（何）かを問う

- B案での問題の焦点は、
- 私（渡辺恒夫）がいなくとも生き続ける他者とは何か？
- 他者の定義＝「私がそれであり得たのに（想像可能なのに）現実にはそうでないような存在」「可能的自己」
- 目のまえにいる山田花子の実在を信じるとは、私が山田花子として生きる世界の実在を信じること。
- →この他者の定義を「**存在論的に対等な他者**」「**私と等根源的な他者**」という。
- ところが私は山田花子として生まれなかったので、そのような世界は現実世界でなく**可能世界**に留まる。
- すると……なぜ無数の他者の中の誰かでなく、「渡辺恒夫」が私であるような世界だけが**現実世界**になっているのか。
- この疑問が、常識的自明性の門が閉じる前の子どもに深い問いかけを生じさせることがある。→自我体験

26

私と存在論的に対等な他者とは何か？

- <あらすじ>
- 私の自覚を深めてゆけば、私の**唯一性**の自覚に達する。
- 他者が私と存在論的に対等(=現象学でいう「等根源的」)であるためには、他者も**唯一**でなければならない。
- すると唯一性を持つ存在が多数存在することになり、「唯一性」という「類」を構成してしまい、**唯一**ではなくなってしまう。
- ↑人間的な世界経験の根源的パラドクス構造
- パラドクスを回避するためには、存在論的に対等な他者は、私とは**時間を異にする**のでなければならない。

27

『子どもの自我体験：ヨーロッパ人における自伝的記憶』 ドルフ・コNSTAM著 渡辺恒夫・高石恭子、訳、 金子書房、2016.

- オランダとドイツのラジオと雑誌で、突然の自我の目覚めの回想を募集。事例は最初ユング。
- オランダ、ドイツ、スイス、オーストリア、ベルギーから、250通の自我体験回想事例が集まる。
- 回想年齢は、3～15歳。報告してきた人の年齢もさまざまで、70歳の方が4～5歳時の体験を鮮明に記憶していた例もある。
- 体験のタイプ別に分けられて、合計90例が紹介。

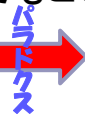


28

【9、10歳：♀（学生、24歳、在アムステルダム）】

- 9歳か10歳の頃のことでした。夜で、真っ暗闇でした。私はベッドに入っていましたが、眠れませんでした。おそらくいつものように、その日にあった出来事について考えていたと思いますが、それが何だったかは思い出せません。
- 突然、どこからともなくある認識が私に訪れました。
- **私は私。私は私であるこの世でたった一人の人間。**
- 私は、この認識が不意にやって来て、私をやや不安にさせたと思います。私は自分のからだに閉じ込められたように、またかなり孤独に感じました。
- 私はその夜考え続け、**誰もがみな自分自身なのだ**と気づきましたが、それでもこの感覚は長く残りました。

自己の唯一性の自覚



自他の存在論的対等性の要請

29

【9歳：ひとり草原で（♀、75歳、在ハーグ）】

- 学校から出ると素晴らしい好天気(……)私は草の上に大の字になり、空を見上げ、肺の奥深くまで息を吸い込みました。
- そしてふいに、私は《何者か》だと理解したのです。**単にクラスの大勢の子どもの中の一ではなく、私の家族の七人の子どもの中の一でもない、独自の一個人であると。**(……)私はそれを誰にも話しませんでした。それは、言葉にはできない一種の「秘密」となりました。(…)
- 私は七五歳になっています。**今では、誰もが唯一の存在だと(知的には)わかります。**でも、当時、その発見は知性とは何の関係もありませんでした。それは忘れられない感覚だったのです。

自己の唯一性の自覚



自他の存在論的対等性の要請

30

日常的に体験するパラドックス事態

- 「私は自分がかげがえのない唯一の存在だとわかった」

自己の唯一性の自覚

- →私にとってBさんはかけがえのない唯一の存在である
- →CさんもDさんも、各自にとってかけがえのない唯一の存在であり、おたがいにもかけがえのない唯一の存在ではないだろうか？

自他の存在論的対等性の要請

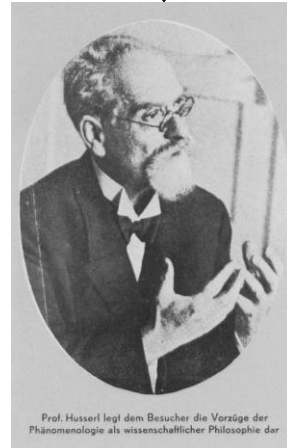
- →すると私たち地球80億の人間は全員が「かけがえのない唯一の存在」という「類」を構成することになり、私たちはその「一例」ということになるから、私たちは「**かけがえのある存在**」に過ぎないではないか？
- ↑ 自己と他者のパラドックス構造（**人間的世界経験の根源的パラドックス構造**）
- ⇒**パラドックス脱出へ⇒他者とは時間を異にした私**

31

パラドックスを回避するためには、存在論的に対等な他者は、私とは**時間を異にする**のでなければならない

<フッサール他者論の時間差解釈> (『人文死生学宣言』第4章、p.88以下参照)

Edmund Husserl(1859-1937)



Prof. Husserl legt dem Besucher die Vorzüge der Phänomenologie als wissenschaftlicher Philosophie dar

- フッサール『デカルト省察』(1931)での他者論
- 他者を眼前にした時の志向性(意識構造)を分析すると、他者の実在の確信には「過去か未来にいる」という志向性(思い)が隠れていると判明。
- フッサールの言葉 「他我は自我の時間化である」
- 他我を志向することは私の過去を志向すること(=過去想起)と平行である。即ち**<過去のある日の私>の実在を信じるように<他者>の実在を信じている。**
- ⇒他者とは、もはや想起できない「私」であり、未だ予期できない「私」である。
- この直観を物語化すると、輪廻転生観になる⇒

32

J・グリーン『ヴァルーナ』 原作1939、高橋たか子訳、人文書院

- ヴァルーナはインド神話の最高神。ユーミン「リインカーネーション」の歌詞さながらの輪廻転生ロマンス。
- 16世紀ヴァロア朝の世に生きる裕福な商人の娘エレーヌは
- 『どうして、と彼女は考えた。どうして、私はベルラン・ロンバールの娘であって、ジャム作りのとき台所を手伝いに来る水門管理人の娘フィネット・ルジュールではないのだろう。……私が、ほかならぬ私だというのは奇妙なことではないだろうか』 (p. 92)。
- 「もっと奇妙な考えだって心に浮かぶことがあるんです。ほかの人であっていいんじゃないかっていうのと同じように、私がまた、ほかの時代に、過去でも未来でも、生きていたかもしれないということなの。……いつかお話ししてくださったダゴベル王の時代に生きたのではなく、このアンリ王さまの治世に私が生きているのは、どうしてかって、いつも考えるのです。」 (pp. 113-114)

33

〈いま・ここ〉の問いが転生観に結びついた調査事例

● 【事例9—1】 (稲垣足穂)

- 俺はもっと人生を愛したい、味わいたい、面白いことをしたい。或は苦しみたい……など云って死にぎわに喚くには当たらないのである。自分がいま、ここにいるように、死んだら又、別ないまこの裡に閉じこめられるであろうことには、疑いはない。この論旨が薄弱だと考えるのは、未だ一度も「自分は何故他の誰かではないのか?」「何故たったいま此処に居るのか?」について思いを凝らしたことの無い者共である。

● 【事例2—18】 (21歳/女子)

「何歳ごろかは覚えていないけど、よく思ったのは、なぜ今なのかということ。何千年も前から人間は生活していたはずである。……”りんね転生”ということがあるが、誰かの生まれ変わりだとしたら自分が死んだ後、また誰かに生まれ変わるのだろうか。よく心霊の本などで前世を覚えている人というのが出てくるが、その人が確かにその本人だったなんて証拠はないのだ……」 『自我体験と独我論的体験』

34

＜中間結論＞

- 「死生観」とは検証反証を要する「仮説」の類ではなく、経験を超えた領域へ向かってひらかれる物語。
- 4つの死生観物語モデル。モデル＝考え方の枠組み。
 1. 終焉テーゼ。
 2. 死後存続説。
 3. 世界消滅説。
 4. 他者とは何か⇒他者とは時間を異にした私
- 検証も反証もできないのであれば何を考えようと同じというわけではなく、モデル相互間の優劣がある。
- 優劣の基準＝自他の認識論的峻別＋エレガント（内的整合性、単純、直観しやすさ）、物語性、存在論的に対等な他者への納得いく態度、等。検討中。
- 1.2は、自己と他者の認識論的混乱から出発している。
- 3は最も単純。実は（後に分かるように）4の極端な例
- 4が有望＝存在論的に対等な他者への納得いく態度

35

4, 「他者とは何か」の省察⇒他者とは時間を異にした私

•最低限の要請

- : 存在論的に私と対等な他者があるとすれば、それは時間を異にした私である。（略←フッサール他者論（志向性分析）の批判的再構成によって論証（『人文死生学宣言』第4章参照））

•基本となる死生観モデル：

- 私が X_i ($i=1+n$: n は0以上の整数) であるような可能世界が次々と現実化してはまた可能世界へ戻ってゆく*。
* $n=0$ で「世界消滅説」と一致。

36

難問：

同時的他者は時間を異にした私でありうるか？

- ⇒ 解決策
- ① 刹那転生
- ② 遍在転生（「偏在」転生ではない！）
- ③ 異世界転生
- ④ 自覚の深さ（体験の同一性）による転生

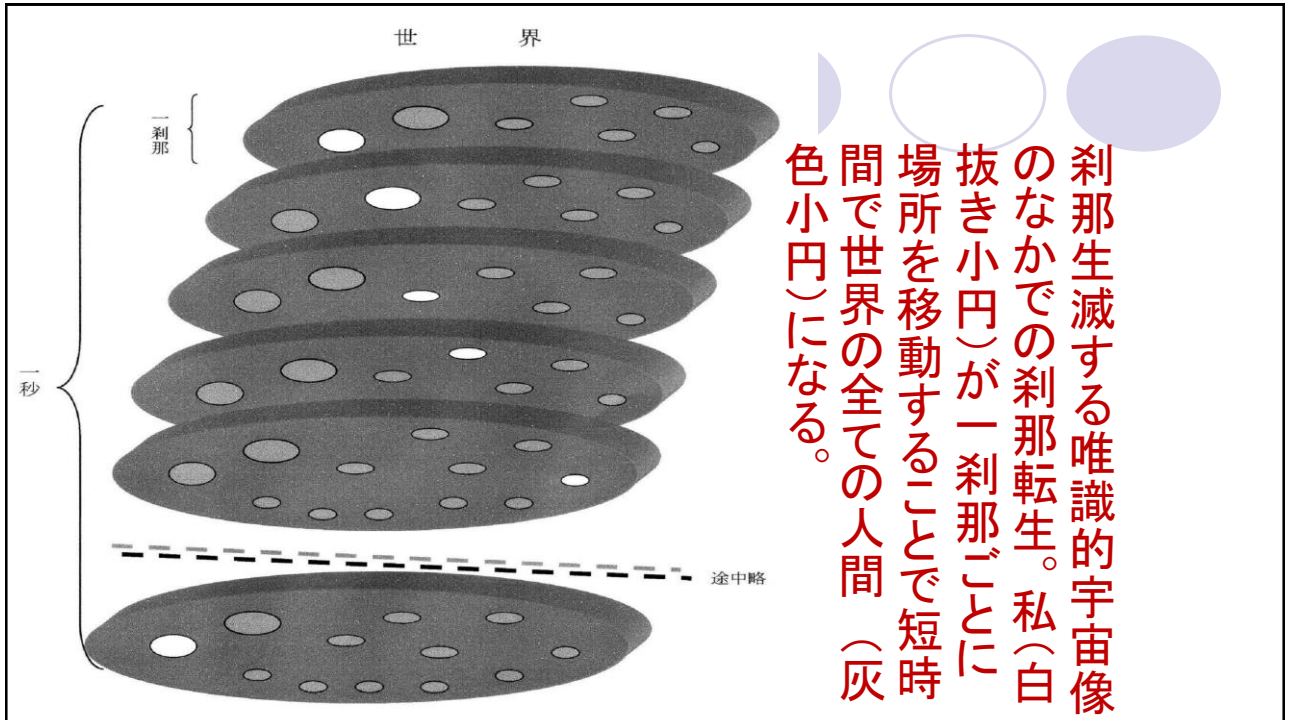
37

① 刹那転生の例：R・スマリヤン『哲学ファンタジー』

高橋昌一郎訳、丸善、1995、p.235

- アンドリカス …… 第三の仮説は、宇宙には、たった一つの心しか存在しない、というものです。この心が、驚くべきスピードで、この世に存在するすべての生物の間を駆け巡るというわけです。たとえば、この心は、あなたの身体に一兆分のそのまた一兆分の一秒間宿り、次に僕に、それから隣人に、そして犬に、というふうに動いていきます。あまりに速く駆け抜けるため、結果的には連続的に見える。つまり、一本の光線がテレビの画面を縦横に駆け巡るのが、あまりにも速いので、僕たちには映像に見えるのと同じことです。
- 哲学者1。それが、東洋の神秘主義者の「汝の隣人は汝自身である」という言葉が表す意味なのかね？

38



39

②遍在転生の例：拙著『輪廻転生を考える』

（講談社現代新書、1996）、pp.127-128

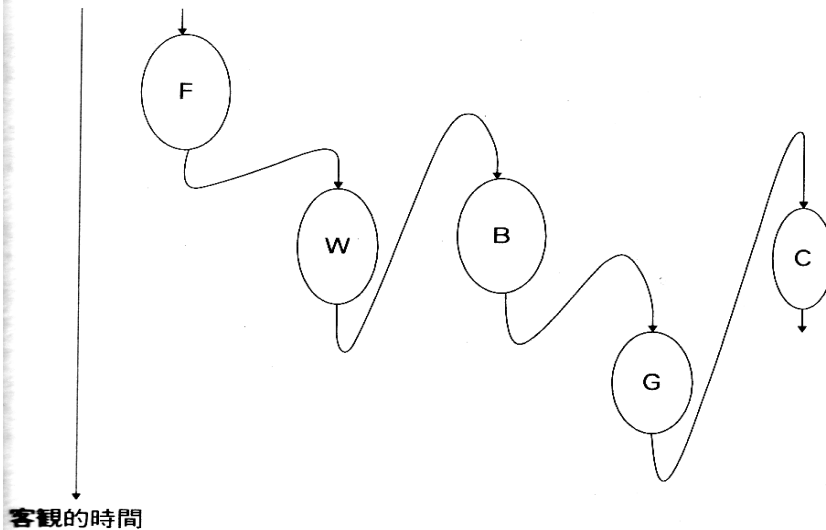
- そのとき、いなずまのように、ある思念が、ある「解答」が閃いた。何十年かしてW. Tである私が死んで、双眼鏡の中のあの子として生まれるのかも知れない。あるいは逆に、私はかつてあの子だったのだが、何十年か後に死んでW. Tとして生まれ変わった、それが今の私なのかもしれない。つまり、双眼鏡の彼方に流れる「あの子」の生とは、私の過去もしくは未来の生なのかもしれない……。
- もちろん、私とあの子は同じくらいの歳であり、過去—未来の関係は成り立たない。けれども、何十年か後に私がW. Tとして死んだときに、いわば時間が巻き戻されて、あの子が生まれる時点に戻るとしたらどうだろうか（あるいはその逆はどうだろうか）。そして、そのような論法を続けていけば、究極的には、同時代人をも含めたすべての人間は、唯一の《私》の過去生か未来生であることになるではないか。

40

図 6-4

各モナドF, W, B, G, Eのあいだを関連づけるのは、ライプニッツの予定調和ではなく、ランダムな時間的前後関係である。WとB, Cが客観的時間の中では同時代人であり、この意味で<私>は遍在することになる。

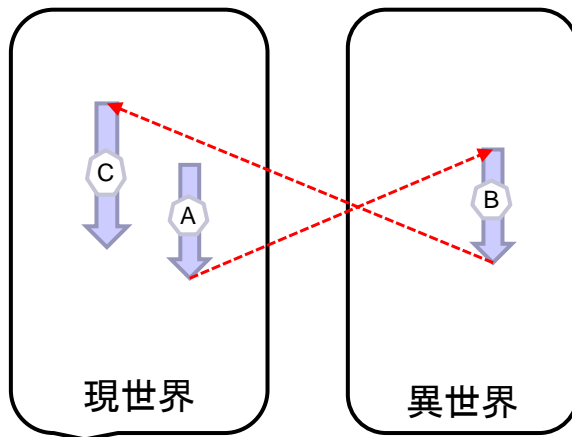
遍在転生のモデル



41

③異世界転生 ライトノベル・マンガ・アニメで大流行

- 多世界・平行世界論に基づけば、②の難点が解決できる。



- 2つの世界の間には時間的順序関係が不在とすると、転生の順序はランダム。
- ゆえに、現世界でAである私が死んで異世界でBとして転生し、死んで現世界でCとして転生すれば、AよりCが早く生まれていることも可能

42

④自覚の深さ(=体験の同一性)による転生

- 「自己を深く自覚した瞬間にしか真の意識はない」グルジェフ(=スーフィズムの導師)
- 自己の自覚の時間的長さ=ジェームズの「主観的現在」
- 主観的現在の長さは実験的に計測可能:
- $0.3s < < \text{十数秒}$
- 昨日私は一度も自己を深く自覚しなかった=昨日は真の意識はなかった。
- 昨日世界のどこかでXが自己を同じくらい深く自覚した。
- ⇒私は昨日Xだった。今日渡辺恒夫に転生したのだ。

<以下、作業中>

43

Thank you for your attention!



44

44